

平成 22 年  
3 月 25 日

# 病害虫発生予報 4 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

## < 目 次 >

### ． 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

麦類：赤かび病	1
ナシ：黒星病	1
促成・半促成ピーマン：アザミウマ類	2
促成キュウリ：うどんこ病	2
施設野菜(イチゴ, 促成・半促成ピーマン, 促成トマト, 促成キュウリ)：灰色かび病	3

【その他の病害虫】	4
イチゴ, 促成・半促成ピーマン, 促成トマト, 促成キュウリ, メロン, 春ハクサイ, 春レタス	

### ． 病害虫ミニ情報

麦類の赤かび病防除対策について	6
水稻の育苗箱施薬について	7

． 今月の気象予報	8
-----------	---

． テレホンサービス	8
------------	---

0 2 9 ( 2 2 6 ) 5 3 2 1

本文に記載した農薬の登録内容は，平成 22 年 3 月 3 日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・今月の予報  
【注意すべき病害虫】

麦 類

1. 赤かび病

[ 予報内容 ]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	-	県下全域

[ 予報の根拠 ]

農研速報（平成 22 年 3 月 17 日，23 日発表）の麦の生育状況によると，出穂期は平年並と予想される。

[ 防除上注意すべき事項 ]

麦の開花から 10 日程度の間が最も感染しやすく，この時期に降雨が続き気温が高くなると発生が多くなるので，気象条件に注意する。防除対策は病害虫ミニ情報（P. 6）を参照する。

ナ シ

1. 黒星病

[ 予報内容 ]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

ナシの開花は平年並と予想されるため，本病の果そう基部での発生時期は平年並と予想される。

昨年 10 月中旬の調査で 秋型病斑の発病度及び発生地点率は過去 8 年間と比べてやや高く，また秋季にまとまった降雨があったことから，菌の越冬量は平年よりやや多いと考えられる。3 月は曇雨天が多く，ナシ園内の菌密度が高まっていると考えられる。

[ 防除上注意すべき事項 ]

芽基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため，見つけ次第除去し，園外に持ち出して適切に処分する。また，園内に落葉が残っている場合は早急に落葉を集め，土中深く埋める。

催芽期～落花期の薬剤散布は，黒星病を防除する上で特に重要であるので，圃場をよく観察し，ナシの生育に合わせて適期に確実に実施する。

開花直前～開花始めの薬剤散布から落花期の薬剤散布までの間隔は，10 日以上空けないように努める。

薬剤散布の際は，薬液が芽基部に十分付着するように，SS の散布圧・風力を上げすぎずに丁寧に散布する。また，散布むらを最小限にするために井桁（縦横）散布等を行い，薬液のかけにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

（平成 21 年 10 月 21 日発表の病害虫情報 No. 11 参照）

## 促成・半促成ピーマン

### 1. アザミウマ類

#### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い	鹿行地域

#### [ 予報の根拠 ]

3月下旬現在，寄生花率，被害果率ともに平年よりやや高い。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。なお，本虫は黄化えそ病を媒介するので注意する。

薬剤は，薬液が葉裏や花にもかかるよう，十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性アザミウマ類の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

## 促成キュウリ

### 1. うどんこ病

#### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い	県下全域

#### [ 予報の根拠 ]

3月下旬現在，発病葉率，発生地点率ともに平年よりやや高い。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう，十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

施設野菜（イチゴ，促成・半促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ）

1．灰色かび病

[ 予報内容 ]

発生時期	発 生 量	発生地域
	平年並	県下全域

[ 予報の根拠 ]

3月下旬現在，発生量は，イチゴ，促成・半促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリともに平年並である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

花落ちが悪い花卉や，罹病部は早急に取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。

薬剤散布は，薬液が乾きにくくなる午後からは行わず，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で，丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	3月下旬現在，平年並の発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並 ～やや多い	3月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成・半促成 ピーマン	斑点病	発生量：平年並	3月下旬現在，平年並の発生である。
半促成 ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	3月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成トマト	ハモグリバエ類	発生量：やや多い	3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	タバココナジラミ	発生量：平年並 ～やや多い	3月下旬現在，平年並～やや多い発生である。本虫は，黄化葉巻病を媒介するので注意する。
促成キュウリ	ハダニ類	発生量：やや多い	3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ミカンキイロアザミウマ		
	ハモグリバエ類		
メロン	べと病	発生量：平年並	3月下旬現在，平年並の発生である。
	つる枯病		
	菌核病		

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
春ハクサイ	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	3月下旬現在，発病度は平年並で，発生地点率は高い発生である。トンネル内が多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。
春レタス	腐敗病	発生量：平年並	3月下旬現在，平年並の発生である。トンネル内が多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。

## 麦類の赤かび病防除対策について

赤かび病は、麦の収量や品質を低下させる大きな原因となります。また、本病原菌はデオキシニバレノール（DON）やニバレノール（NIV）等のかび毒を産生するため、農産物検査規格における赤かび粒混入率の許容値は0.0%と厳しく設定されています。

本病原菌は、麦の開花から10日程度の間が最も感染しやすく、この期間に降雨が続き、気温が20以上になると発生が多くなります。

今年も、今後の気象や麦の生育状況などに注意するとともに、下表を参考に必ず防除を実施してください。なお、本病に対する薬剤防除の適期は、小麦、六条大麦では開花期、二条大麦では穂揃い10日後頃です。出穂期予測などの情報をもとに防除計画を立て、効果的な薬剤防除を行うことが重要です。また、発病の好適条件が続く場合などは、1回目の散布後7～10日に2回目の散布を行います。ただし、薬剤によっては出穂後1回しか使用できないものもあるので注意してください。

なお、麦類のDON・NIV汚染低減対策については、「麦類のデオキシニバレノール・ニバレノール汚染低減のための指針（平成20年12月17日農水省公表）」を参考にしてください。

表 赤かび病に登録のある主な薬剤（平成22年3月3日現在）

薬剤名	対象麦種 <sup>1</sup>	収穫前日数 - 本剤の使用回数	希釈倍数 <sup>2</sup>	有効成分
シルバキュアフロアブル	小麦	7-2	2,000倍	テブコナゾール
			500倍（少量散布）	
	六条大麦・二条大麦	14-2	2,000倍	
			16倍（無人ヘリ）	
ストロビーフロアブル	小麦	14-3	2,000～3,000倍	クレソキシムメチル
			500倍（少量散布）	
	六条大麦・二条大麦		2,000～3,000倍	
チルト乳剤25	小麦	3-3	1,000～2,000倍	プロピコナゾール
		7-3	8倍（無人ヘリ）	
	六条大麦・二条大麦	21-1	1,000～2,000倍	
			8倍（無人ヘリ）	
トップジンM水和剤	小麦	14-3(出穂期以降は2)	1,000～1,500倍	チオファネートメチル
		250倍（少量散布）		
トップジンMゾル	小麦	14-3(出穂期以降は2)	1,000～1,500倍	
			8倍（無人ヘリ）	
	六条大麦・二条大麦	14-3(出穂期以降は1)	1,500倍	
		21-3(出穂期以降は1)	8倍（無人ヘリ）	
ベルコート水和剤	小麦	21-3(出穂期以降は1)	1,000～2,000倍	イミノクタジン

1 農薬の登録上は、小麦・大麦・麦類（小麦を除く）などと表記されているが、ここでは本県での作付け麦種に合わせた。

2（少量散布）は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用する。（無人ヘリ）は無人ヘリコプターによる散布に限定される。

## 水稻の育苗箱施薬について

育苗箱施薬は本田での散布に比べて作業が簡便で省力的です。しかし病害虫が発生する前に薬剤を施用するため、場合によっては対象病害虫が発生せず、結果的に過剰防除となることがあります。また、効果が長続きする薬剤や、対象とする病害虫の数の多い薬剤には、高価なものが多くみられます。過去の病害虫の発生状況を十分に考慮したうえで適切な薬剤を選択してください。

### 薬剤の選択

育苗箱施薬は、イネミズゾウムシなど水稻の生育初期に発生する害虫や、いもち病などを防除できます。薬剤を選択する際は、下表および農作物病害虫雑草防除指針等を参考に、病害虫の発生状況にあわせて薬剤を選択してください。また、播種時や緑化期に施用できる薬剤もあり、作業体系に応じて選ぶこともできます。

表 主な対象病害虫と薬剤の使用例（平成 22 年 3 月 3 日現在）

対象病害虫	薬剤
イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ	アドマイヤー箱粒剤，オンコル粒剤 5，ガゼット粒剤，プリンス粒剤，パダン粒剤 4
いもち病	デラウス粒剤，フジワン粒剤，オリゼメート粒剤
いもち病 + イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ	ジャッジ箱粒剤，Dr.オリゼプリンス粒剤 6，デラウスプリンス粒剤 0 6，フジワンプリンス粒剤，ウィンアドマイヤー箱粒剤
いもち病 + 紋枯病 + イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ	嵐ダントツ箱粒剤，嵐プリンス箱粒剤 6，ウィンアドマイヤーグレータム箱粒剤

### 使用時の注意点

田植え前に散布する場合は、葉が濡れていると薬害を生じやすいので、苗の露を払ってから、専用の計量箱か散布器を用いて所定量の薬剤を均一に散布してください。その後、葉に付着した薬剤を払い落とし、さらに軽く散水して薬剤を全部育苗土表面に落ち着かせてください。

播種前に使用する場合は、薬剤を床土に均一に混和します。この場合、薬剤の混じった床土が余って残ることがないように、必要量だけの用土を準備してください。

薬剤の処理およびその後の育苗管理は、他の農作物を栽培する場所では行わないでください。（薬剤を処理した場所で野菜等の農作物を栽培すると、意図しない農薬がその作物に吸収されるおそれがあります。）

### おもな病害虫の防除のポイント

育苗箱施薬を行っても、病害虫の発生期間が長期化したり、多発生することがあります。適正な施肥や中干しなどを行って、イネの健全な生育を心がけるとともに病害虫が発生しにくい環境を整えることが大切です。それでも病害虫が多発生した場合は本田防除を実施しますが、その際は育苗箱施薬とは異なる系統の薬剤を使用してください。同じ薬剤を繰り返し使用していると、病害虫が耐性や抵抗性を獲得する可能性があるため注意が必要です。

- ・イネミズゾウムシ：湛水状態は成虫・幼虫の活動に適するため、中干し・間断灌漑など適正な水管理に努める。
- ・イネドロオイムシ：田植え後 1 か月程度経過してから加害のピークを迎えるので、効果が長続きする薬剤（アドマイヤー系，ダントツ系，プリンス系の各剤など）が適している。
- ・いもち病：過剰な窒素施用は、いもち病の発生を助長するので、適正な施肥を行う。補植用置き苗を長期間放置しておくとし、葉いもちの発生源になるので、置き苗は早期に処分する。
- ・紋枯病：越冬した菌核が代かき時に水面に浮上し、イネの株元に付着して伝染源となる。代かき時に水尻や畦畔沿いに溜まる浮遊物（前年の株残渣など）を除去する。



## ・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報  
(予報期間 3月20日から4月19日)

気象庁(3月19日 発表)

<特に注意を要する事項>

関東甲信地方では、この先気温が高くなり、期間の前半はかなり高くなる可能性もあります。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[ 確率 ]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	30	40
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[ 概要 ]

天気は、数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

<1週目の予報> 3月20日(土曜日)から3月26日(金曜日)  
気温 関東甲信地方 高い確率60%

<2週目の予報> 3月27日(土曜日)から4月2日(金曜日)  
気温 関東甲信地方 低い確率50%

<3週目から4週目の予報> 4月3日(土曜日)から4月16日(金曜日)  
気温 関東甲信地方 高い確率40%

## ・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

4月上旬 ナシの黒星病について

4月下旬 麦類の赤かび病について

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。